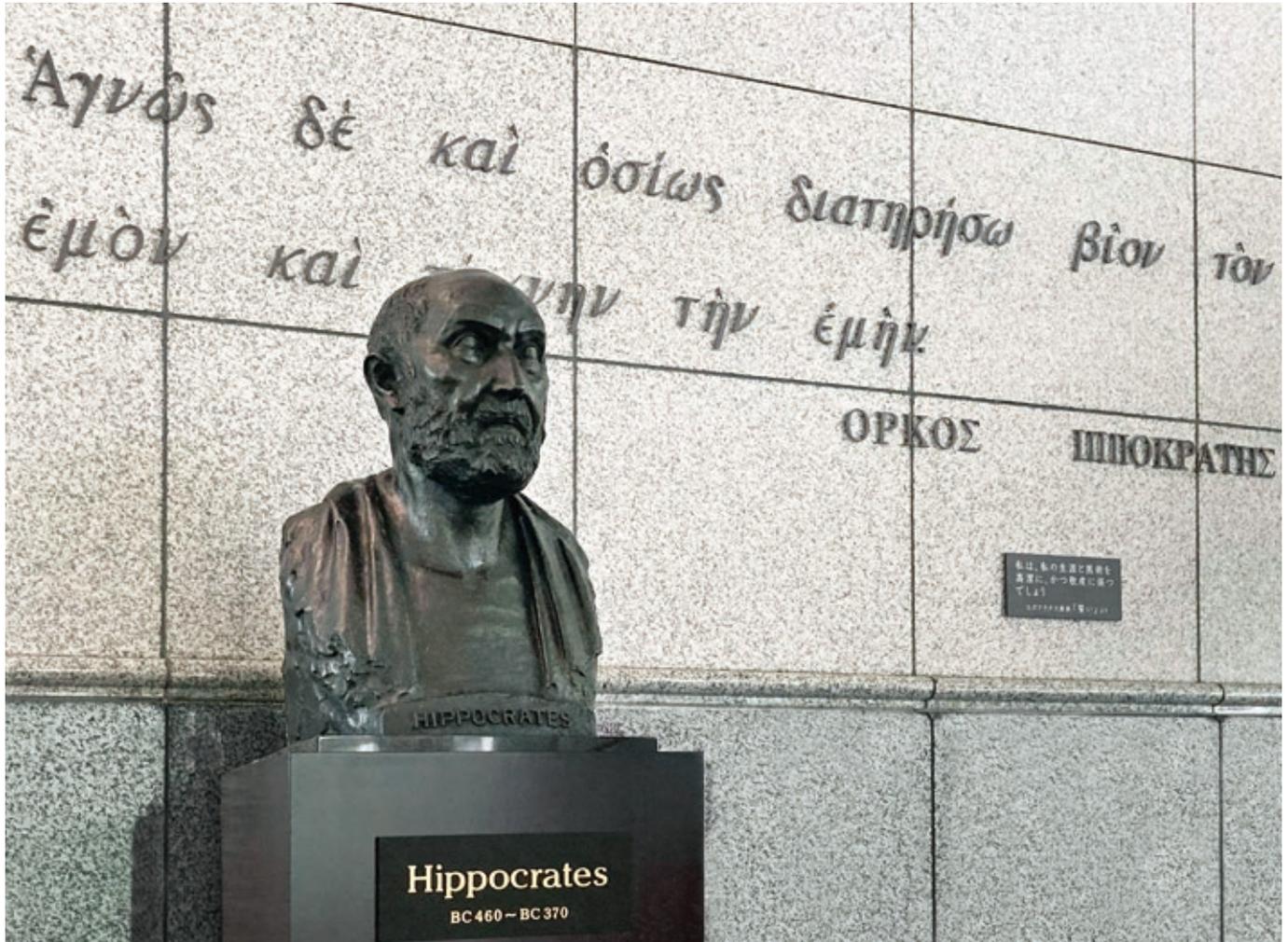


# 関西医科大学 広報



中村晋也氏制作のヒポクラテス像

## 医学部棟に設置されたヒポクラテス像

Vol.55

### CONTENTS

トピックス：総合診療医学講座（地域医療学）の設置

P.1

大学：オープンキャンパス開催

P.5

トピックス：起立性調節障害児の運動療法と機器とを開発するためクラウドファンディングを実施

P.2

大学：大学院学位記授与式

P.7

大学：オール女性医師キャリアセンター厚労省助成事業採択

P.4

病院：オンライン・セカンドオピニオン外来設置

P.11

# 寄付講座 総合診療医学講座(地域医療学)の設置

令和3年4月に本学に寄付講座「総合診療医学講座(地域医療学)」を設置するとともに、香里病院に「総合診療科」を新設いたしました。

## 本学における総合診療医学講座(地域医療学)の設置

香里病院 病院長 岡崎 和一

わが国では、令和6年以降、後期高齢者の急増による少子超高齢化社会が加速することにより、医療環境の激変が予想されています。特に高齢者特有ともいえる複数疾患を有する患者に対し全人的医療を実践できる医師の育成強化は極めて重要であり、既に政府主導で官民を挙げての取り組みが開始されています。具体的には、新専門医制度における総合診療専門医の創設とともに、日本プライマリ・ケア連合学会と日本病院医療医学会コンソーシアムでは「新・家庭医療専門医」、「病院総合診療専門医」、および高い総合診療能力をもつ従来の「サブスペ専門医」といった、多様で将来性のあるキャリア制度を構築しています。

一方、本学の位置する北河内医療圏は、高齢者の占める割合が大阪府は勿論のこと、日本全体の平均よりも高い地域であり、医科大学として日常遭遇する疾患への適切な初期対応や必要に応じた医療提供を通じ、地域医療や地域保健福祉に貢献することが求められています。しかしながら、学内で附属病院総合診療科の外来診療のみを通じての育成しかなされていない現状は、専門研修基

幹指導施設への過渡的措置の廃止される令和5年以降は専門医機構の求めに対応できないことより、入院診療も介した育成制度の強化が喫緊の課題となっていました。

此度、本学の建学精神「慈仁心鏡」のもと、総合診療医育成体制の強化を図ることを目的として、山下敏夫理事長、友田幸一学長はじめ関係各位の全面的な支援により、本学に初めて寄付講座「総合診療医学講座(地域医療学)」を設置するとともに、香里病院に「総合診療科」を新設しました。この度、卒後研修制度で先駆的実績のある天理よろづ相談所病院で、責任者の一人として永らくレジデント教育と救急診療に携わってきた石丸裕康先生を新設の本学総合診療医学講座の理事長特命教授ならびに香里病院総合診療科部長としてお迎えすることができました。香里病院では開院以来、各専門内科でなく総合内科的な「内科」を標榜し、各領域の専門医が協力して領域横断的な教育・診療体制を敷いており、この度の総合診療医学講座の創設を機会に、「内科・総合診療科」として、今まで以上に全人的医療の提供と若手医師の育成強化を図る体制となりました。

## 総合診療医学講座 理事長特命教授に就任して

理事長特命教授(総合診療医学講座(地域医療学)) 石丸 裕康



令和3年10月1日付けで理事長特命教授(総合診療医学講座(地域医療学))を拜命いたしました、石丸裕康と申します。山下理事長、友田学長、岡崎香里病院長はじめ関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

私は平成4年に大阪大学を卒業後、天理よろづ相談所病院

にレジデントとして採用となり、初期・後期研修を経て、同院にて総合診療・総合内科、救急診療、研修医・専攻医教育に従事してまいりました。このたび医学教育の根幹である大学において、診療・教育にあたる場を与えていただいたことは、大変貴重な機会であるとともに大きな責任を感じているところです。総合診療は、新・専門医制度において基本領域として認められた新しい領域ですが、少子高齢化のさらなる進展、疾病構造の変化など医療環境の激変が予測される中、今後の医療を支えてい

く鍵となるものと考えております。プライマリ・ケア、病院総合診療をキャリアとして確立し、優秀な人材を育成するとともに、それらがインフラストラクチャーとして地域医療の基盤となることを大きな目標として、微力ではありますが尽力させていただき所存です。

総合診療は、多くの診療科、他職種との連携がとりわけ求められる領域であり、関係の皆様におかれましては、ご指導・ご支援の程、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

平成 4年 3月	大阪大学医学部卒業
平成 4年 5月	天理よろづ相談所病院ジュニアレジデント
平成 6年 5月	天理よろづ相談所病院シニアレジデント(内科ローテートコース)
平成 8年 5月	同チーフレジデント
平成 9年 5月	天理よろづ相談所病院総合診療教育部医員
平成20年 5月	天理よろづ相談所病院救急診療部副部長(兼任)
平成23年 4月	天理よろづ相談所病院総合診療教育部副部長
平成26年 6月	京都大学医学部臨床教授
平成30年 1月	天理よろづ相談所病院救急診療部長(兼任)
令和 3年10月	関西医科大学 理事長特命教授(総合診療医学講座(地域医療学))



## 学長特命教授(附属生命医学研究所がん生物学部門)に就任して

附属生命医学研究所がん生物学部門学長特命教授 坂本 毅治



令和3年7月1日付で関西医科大学附属生命医学研究所がん生物学部門の学長特命教授を拝命いたしました。

私は大学院生時代から現在までがんの基礎研究に従事してきました。中でも、腫瘍組織中のがん細胞を取り囲む低酸素や低栄養、細胞外基質ががんの増殖、転移にどのように影響を与えるか、がん細胞とがん関連線維芽細胞やマクロファージなどの炎症細胞との相互作用がどのように制御されているか、といった「がん微小環境」に関わる分子の機能解明に特に興味を持ち、タンパクレベル、細胞レベルの解析から遺伝子改変マウスを用いた解析、臨床検体を用いた発現解析などを中心に行ってきました。また、これらの基礎研究で得られた知見を元に、がん微小環境制御機構を標的とした創薬研究も行っています。

がん研究は近年益々高度化しており、分子生物学的手法を中心とした基礎の研究室単独では立ちいかず、臨床の先生方、情報科学の先生方、がんとは異なる分野の先生方との共同研究が必須となってきております。がん生

物学部門では、是非多くの先生方と共同研究させて頂く機会を得て、スタッフ、学生とともに純粋なサイエンスの楽しみと医学応用とのバランスをうまく取りながら研究を進展させ、本学の研究アクティビティーに少しでも貢献できればと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

### 略歴

平成14年 3月	東京大学農学部獣医学課程獣医学専修卒業
平成18年 3月	東京大学大学院医学系研究科医学博士課程単位取得後退学
平成18年 4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科 リサーチフェロー
平成19年 9月	東京大学大学院医学系研究科 博士(医学)取得
平成20年 4月	東京大学医学研究所腫瘍細胞社会学分野 特任研究員
平成21年 6月	東京大学医科学研究所腫瘍細胞社会学分野 助教
平成24年 4月	Institute of Molecular Biotechnology of the Austrian Academy of Sciences(IMBA) visiting researcher
平成25年 4月	東京大学医学研究所抗体・ワクチン治療研究部門 特任助教
平成26年 2月	東京大学医学研究所人癌病因遺伝子分野 助教
平成30年 6月	東京大学医学研究所分子発癌分野 准教授
令和 2年 4月	金沢大学医薬保健学研究域医学系システム生物学分野 特任准教授
令和 3年 7月	関西医科大学附属生命医学研究所がん生物学部門学長特命教授

## 起立性調節障害児の運動療法と機器とを開発するためクラウドファンディングを実施

小児科学講座石崎優子准教授らは、運動不足で悪化している重症の起立性調節障害児の運動能力の回復を目指した新しいトレーニング機器と運動療法開発のため、READYFOR株式会社が展開するサービス「READYFOR」を利用したクラウドファンディングを行いました。石崎准教授らが目指すトレーニング機器・治療法開発は、「朝起きると体が動かない、めまいがする」などの症状がある起立性調節障害が重症化し、立って運動することが難しい子どもたちに、寝たままでも有効な治療を提供するためのものです。昨今のコロナ禍の影響を受けたロックダウンや外出自粛から運動不足になった結果、起立性調節障害の症状を呈する子どもが増えているとの報告もあります。今回の挑戦では、従来は薬を飲んでもカウンセリングを受けても治らないと諦めていた子どもたちに身体活動の重要性を伝え、適切な運動療法を行い、早期の社会復帰と中長期的に健全な人格形成を支援することを目的としています。

また、7月7日(水) 11時から、クラウドファンディ

ングの概要を発表するオンライン記者会見が実施されました。会見では友田幸一学長、小児科学講座金子一成教授の挨拶の後、石崎准教授が臨床試験の概要を説明し、寄付を募りました。

※プロジェクト開始後、多くの方々からご支援を頂戴し、第一目標である500万円、第二目標である800万円を超え、最終目標である1,000万円に到達いたしました。心から感謝申し上げます。



オンライン記者会見の様子



# 「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様のご協力をお願い申し上げます

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和4年3月末日まで

## 募金のお手続き

**申込書提出**

募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。  
 ・申込書はホームページに掲載しております。  
 ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。

**お振込み**

募金専用口座へお振込み下さい。  
 ・インターネットバンキングからお振込み  
 ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み ※本人確認が必要です  
 ・ATMからお振込み ※上限額がございます

**確定申告**

確定申告いただくと所得税が減税されます。  
 ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。  
 ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。

税制上の優遇措置	
個人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。

なお、この募金の応募は任意です。

令和3年12月31日までに寄付をいただきますと、令和3年分の確定申告の対象となります。

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒(切手不要)、振込用紙をお送りいたします。

令和3年7月から令和3年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

**ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。**

## 遺贈・相続財産からのご寄付も承ります

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店(06-6366-0401)  
 三井住友信託銀行大阪本店法人業務部(06-6220-2515)

法人事務局募金室  
 〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
 TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344  
 メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp  
<http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	7月7日	起立性調節障害児の運動療法と機器開発のためのクラウドファンディング記者会見
	7月15日	北河内メディカルネットワーク(KMN)医療安全共同研修
	8月30日	枚方市総合文化芸術センター開館
	9月2日	世界大学ランキングにランクイン
	9月6日	ヒポクラテス像設置
大学	7月8日	新任教員FD
	7月11日	看護学部リアルオープンキャンパス
	7月18日	リハビリテーション学部リアルオープンキャンパス
	7月14日	医学教育ワークショップ
	7月16日	医学部1学年課題川柳表彰式
	7月17日、25日	医学部リアルオープンキャンパス
	8月7日	オンラインシンポジウム『被虐待経験のあるAYA世代の困難と希望』開催
	9月14日	令和2年度「学生からの教育評価」に基づく教員の表彰
	9月17日	大学院看護学研究科学位記授与式
	9月18日	医学研究科リトリート
附属病院	9月25日	研究医養成コース コンソーシアム発表会
	9月28日	大学院医学研究科学位記授与式
	8月4日	しまじろう病院訪問プロジェクト
総合医療センター	8月16日	オンライン・セカンドオピニオン外来開設
	7月8日	地域連携Webセミナー
卒後臨床研修センター	9月29日	地下水膜ろ過システム完成式典
	8月6日、13日	令和4年度採用研修医・研修歯科医採用試験
	8月21日	令和4年度専攻医研修説明会



しまじろう病院訪問プロジェクト



大学院看護学研究科学位記授与式



医学部リアルオープンキャンパス

## 「医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.31」適合の認定を受けました。

関西医科大学は、2021年8月、一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による「医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.31」適合の認定を受けました。



## THE世界大学ランキングにランクイン

9月2日(木)、英国の高等教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」は、世界大学ランキング2022を発表しました。

このランキングは、毎年秋に公表されている国際的な大学ランキングで、教育力、研究力、研究の影響力(被引用論文)、国際性、産業界からの収入の5分野13項目をスコア化し総合力を測ったもので、ほかのランキングと比べて研究力と教育力に比重を置いた評価が特徴です。今回評価項目の中で、本学は「研究の影響力(被引用論文)」において高い評価を得ました。

その結果、本学は『601-800』位(昨年同様)にランクインしました。国内では国公立の総合大学を含めて13位、関西地区では京都大学、大阪大学に次いで3位、国内の私立大学では産業医科大学に次いで2位となりました。



## オール女性医師キャリアセンターが厚労省「女性医療職等の働き方支援事業」に採択

8月30日(月)に本学が、厚生労働省「令和3年度女性医療職等の働き方支援事業」の実施者に採択されました。

この事業は、近年医師における女性の割合が高まっている状況を踏まえ、女性医療職等がキャリアと家庭を両立出来るような取り組みを構築している機関を支援し全国的な女性医療職等のキャリア支援を充実させることを目的としています。本学では、令和2年4月に設置されたオール女性医師キャリアセンターが中心となってこの事業に取り組みます。

センターでは、各臨床系講座に配置した女性医師キャリア形成支援担当者と連携し、女性医師が安心してキャリアを継続できる環境の整備に取り組んでいます。病児及び病後児保育支援制度を新設し、診療業務と育児の両立を支援するほか、講座単位での女性医師復帰プログラムを整備し、スムーズな臨床現場への復帰を支援しています。本学で活躍する女性医師の声や詳しい活動内容はメールやWEBサイトにて紹介しています。

オール女性医師キャリアセンター  
ホームページはこちら→



## ヒポクラテス像設置

枚方キャンパス医学部棟1階正面玄関エントランスホールに、ヒポクラテス像が設置され、9月6日(月)14時から、山下敏夫理事長、友田幸一学長、附属病院松田公志病院長、寄贈者の富永良太氏が出席し、除幕式が行われました。この像は文化勲章受章者で日本芸術院会員の中村晋也氏による作品です。

ヒポクラテスは古代ギリシアの医師で、彼の教えを受け継いだ者たちが後世に編んだとされ、医師の倫理・任務について述べた「ヒポクラテスの誓い」が、今回像が設置された医学部棟エントランス左側面に刻まれています。



除幕式の様子

## 令和3年度リアルオープンキャンパス開催

### ■ 医学部

7月17日(土)および25日(日)13時~16時30分、枚方キャンパス医学部棟において、医学部リアルオープンキャンパス2021が開催され、高校生を始めとした受験生・保護者ら393名(両日計)が参加しました。

今年度のリアルオープンキャンパスは、昨年引き続き参加人数の制限や実施プログラム一部縮小の他、検温やソーシャルディスタンスの確保、学内各所への消毒液の設置など新型コロナウイルス感染症感染予防策を徹底して行われました。

全体説明会場の加多乃講堂では、在学生の司会の下、カリキュラム説明、キャンパスライフ説明、入試概要説明等を行いました。また、同会場での在学生会トークイベントでは、司会を務めた在学生会が受験勉強や学生生活について自身の体験を語りました。

その他、在学生会2名がシミュレーションセンターなどの学内施設を紹介する学舎見学会や、受験相談、学生生活相談、学納金・奨学金相談、地域枠相談といった各種個別相談会も行われました。



シミュレーションセンターでの見学の様子

### ■ 看護学部

7月11日(日)、枚方キャンパスにおいて看護学部オープンキャンパスが開催されました。感染症対策のため完全予約制とし、12時30分から順次3クールに分けて実施しました。

看護学部片田範子学部長の挨拶に続き、入試説明、学生トークショー、模擬講義が行われました。その後はグループごとに看護学部棟の施設見学を実施。学生トークショーはオンラインでもリアルタイム配信され、学外からもたくさんの参加者が視聴しました。

また、個別相談ブースでは、入試やカリキュラムなどについて教員に相談できる相談ブースや在学生会と個別に話ができる学生相談ブースが設置され、学生生活や入試対策などに関して熱心に相談する様子が見られました。

学生相談ブースで相談に乗る在学生会



学生トークショーの様子

### ■ リハビリテーション学部

7月18日(日)、牧野キャンパスにおいてリハビリテーション学部オープンキャンパスが開催されました。10時からを1クール、13時からを2クールとし、受け入れ人数制限の上、感染対策を徹底して開催。リハビリテーション学部飯田寛和学部長による学部紹介、理学療法学科佐藤春彦教授、作業療法学科松島佳苗准教授によるミニ講義や入試センター職員による入試説明が行われた他、学科説明やそれぞれの学科の模擬体験のブースが開設されました。理学療法学科の「テーピング」の体験ブースでは、リハビリテーション学部在学生会が来場者に足首を固定するテーピングの方法を指導。作業療法学科の体験ブースでは、補助具を使って靴紐を結ぶ体験や、脳の認知機能検査で提示されたイラストと同じ図形を描くパズルなどを実施。来場者は興味深そうに取り組んでいました。教職員による個別相談の他、在学生会による個別相談も開かれ、学生生活や入試対策などについて来場者が相談する姿が見られました。

テーピングの実演をする在学生会



認知機能検査のパズルの様子

## オープンキャンパスOnline開催

オープンキャンパスOnlineでは、学長メッセージや、入試説明、模擬講義、令和3年2月に竣工した牧野キャンパスのリハビリテーション学部棟の紹介動画などを公開しています。また今年度は、看護学部及びリハビリテーション学部で、教員や入試担当部門の職員とZOOMを用いて個別に相談できる「オンライン相談会」も実施されました。

## 大学院選択必修コースリポート

9月18日(土) 13時30分から枚方キャンパス医学部棟第2~4講義室において開催され、大学院医学研究科の大学院生と教員あわせて115名が参加しました。博士課程3・4学年による研究中間発表では、4つの選択必修コース(細胞の増殖と分化コース、体の高次機能コース、形態形成と老化コース、社会と健康コース)ごとに発表を行い、参加している大学院生および教員の投票結果から優秀者を1名ずつ選出し、最後に表彰しました。新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は規模を縮小しての開催となりましたが、研究中間発表者は自分の研究進捗や成果を報告し、フィードバックを受ける良い機会になりました。



挨拶する人見浩史大学院医学研究科教務部長

### 【研究中間発表優秀者】

細胞の増殖と分化コース 3学年 池田 純一さん  
 体の高次機能コース 3学年 朴 正旭さん  
 形態形成と老化コース 3学年 Tran Nguyen Truc Linh さん  
 社会と健康コース 3学年 田口 周さん

## 令和2年度「学生からの教育評価」に基づく教員の表彰

9月14日(火) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「令和2年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。これは本学医学部教員の教育活動を奨励し、その資質の向上を図ることを目的とするもの。学生による授業評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。この日の表彰式では、令和2年度表彰の対象となった教員に友田幸一学長から表彰状が手渡されました。



表彰式の様子

### 【受賞者受賞科目一覧】

#### ●医学部 教育奨励賞

教養・基礎統合コース部門	臓器別系統別コース部門	臨床実習科目部門
1位「生体の構造と機能A1(1)」(1学年)	1位「臨床腫瘍学コース」(4学年)	1位「内科学(三)」
2位「生体の構造と機能P1」(1学年)	2位「救急・中毒コース」(4学年)	2位「小児科学」
3位「生体の構造と機能P2b」(2学年)	3位「麻酔・集中治療コース」(4学年)	3位「眼科学」

#### ●大学院医学研究科 教育奨励賞

講義シリーズ部門(大学院総合講義)		
1位	「臨床研究等倫理講習会①」	楠本健司 教授(形成外科学講座)
2位	「図書館利用/文献検索講習会」	高橋寛二 教授(眼科学講座)
3位	「総合研究施設利用講習会」	清水(小林)拓也 教授(医化学講座)
研究技術シリーズ部門		
1位	「生命科学データベースの使い方」	片野泰代 准教授(医化学講座)
2位	「生化学実験I(タンパク質発現解析②)」	松田達志 准教授 (附属生命医学研究所生体情報部門)
3位	「医用統計学入門IV」	北脇知己 教授(数学教室)

※当年度は、遠隔授業が中心であったことから、教育奨励賞(教員部門)、教育努力賞(科目部門・教員部門)についてはなし。

※掲載情報は開講当時

## 令和3年9月度学位記授与式挙行

9月28日(火) 15時30分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和3年9月度大学院医学研究科学位記授与式」が挙行されました。学位記授与式には友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、人見浩史大学院医学研究科教務部長や指導教員らが列席し、課程博士11名、論文博士3名に博士(医学)の学位記が授与されました。

その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労い、「これまでの努力を今後の医師人生に活かしていただき、さらなる活躍を期待します」との激励の言葉が贈られました。

また9月17日(金) 10時から枚方キャンパス看護学部棟2階第一講義室において、友田幸一学長、片田範子大学院看護学研究科長、関西医科大学附属看護学校同窓会安田照美会長らが列席し、「令和3年9月度大学院看護学

研究科学位記授与式」が挙行され、博士前期課程の修了生5名に友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力が労われ、片田研究科長の祝辞では、コロナ禍の中学んできた修了生の努力をたたえ引き続き研究の道をさらに究めてほしいと励ます言葉が贈られました。



学位記を手に持つ医学研究科修了生

## オンラインシンポジウム『被虐待経験のあるAYA世代の困難と希望』開催

8月7日(土) 13時から、本学と社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会大阪乳児院(大阪乳児院)との共催でオンラインシンポジウム『被虐待経験のあるAYA世代の困難と希望』が開催されました。本学は大阪乳児院と連携協定を結び妊娠期から育児期まで切れ目のない母子支援に取り組んでいます。この一環で、虐待を未然に防ぎ子どもや家族を支援する医療・保健・福祉関係者を対象とした研修としてこのシンポジウムが開催されました。

こころとからだ光の花クリニック白川美也子院長による「被虐待児とトラウマ治療」と題した教育講演、大阪府委託事業産前産後母子支援事業「おくるみ」の実践報告に続き、看護学部母性(助産)看護学領域酒井ひろ子教授をファシリテーターとした「被虐待経験のあるAYA世代の困難と予防教育」連鎖を断ち切るという挑戦～被

虐待経験のある親として～」と題する2つのシンポジウムが行われた他、看護学部母性(助産)看護学領域川寄有紀助教による「産前産後母子支援事業事業報告」が行われました。



シンポジウムを進行する酒井教授

## 医学部1学年課題川柳表彰式

7月16日(金) 11時35分から、枚方キャンパス医学部棟1階第1講義室において、「令和3年度医学部1学年課題川柳表彰式」が執り行われ、最優秀作品として1学年末藤海瑛さんの作品が、優秀作品として1学年東田初花さんと津田直輝さんの作品がそれぞれ選ばれ、西山利正学生部長および1学年の医学部生が見守る中、友田幸一学長から受賞者に表彰状が贈られました。

受賞者を前に挨拶に立った友田学長は、「川柳の言葉通り6年間勉学にしっかり励んでほしい」と激励しました。

その後、受賞者一人一人が、それぞれの作品に込めた思いを述べました。

最後に医学部棟加多乃講堂に場所を移し、友田学長と受賞者は記念撮影を行いました。

- |    |                              |
|----|------------------------------|
| 末藤 | 海瑛さん作品<br>「我願う この街から 世界へと」   |
| 東田 | 初花さん作品<br>「世界への 架け橋となる この学び」 |
| 津田 | 直輝さん作品<br>「最下位も 国試に通る 学年へ」   |



写真左から津田さん、末藤さん、友田学長、東田さん、西山学生部長

## 看護学部卒前インターンシップ実施

4月から8月にかけて、看護学部4年生が「卒前インターンシップ」として実習を行いました。平成30年に開設された看護学部は今年度末に初めて卒業生を輩出します。「卒前インターンシップ」は、学生がこれまでに学んだ知識・技術を統合し、専門職業人として求められる実践力を養い、社会人としての準備状況を整えるためのものです。学生たちは、附属病院や総合医療センター、香里病院などの本学附属医療機関をはじめとしたそれぞれの希望進路に沿った現場で、実習に取り組みました。



## 医学部5回生三浦さんが第40回昭和池田賞受賞

医学部5回生三浦雅郁さんが第40回昭和池田賞の優秀賞を受賞しました。昭和池田賞は、青年の育英と社会福祉のために設立された公益財団法人昭和池田記念財団により募集されたものです。今回32編の応募の中から厳正なる審査が行われ、優秀賞3編のうちの1編に選ばれました。

テーマ／ポストコロナ社会を考える 作品名『国内主義～ポストコロナによる脱グローバルズムとネーション重視』

### ○三浦さんコメント

現在、COVID-19によって世界の社会構造、政治体制は大きく変化していくと考えられます。その変化をイアン・ブレマーの提唱したGOとナショナリズムの根源となったネーションの二方面から分析した論文を投稿したところ、このような歴史ある賞を受賞するに至りました。日頃から社会問題に目を向ける機会を与えてくださった衛生・公衆衛生学講座の先生方と、医系技官養成コースを作り大学の社会医学の門戸を広げてくださった学長先生にこの場を借りて謝辞を述べさせていただきます。



## 医学部6回生小島さんが野口エッセイコンテストで優秀賞受賞

医学部6回生小島優貴さんが野口エッセイコンテストで優秀賞を受賞しました。このコンテストは米国財団法人野口医学研究所により、医療スタッフを目指す学生を応援するために開催されたもので、第一回のテーマは「一夢—10年後、あなたが成し遂げていること」。129名の応募作品の中から小島さんの作品が優秀賞に選ばれました。

作品名『今までの10年とこれからの10年』

### ○小島さんコメント

国家試験に向けて勉強が本格的になっていく中、頭の中を整理したいと思い、応募させていただきました。医学部を目指したきっかけ、医学部生活で感じた事、今後のなりたい自分。実際に文章にし、手直しする中でやはり自分は医師になりたいことが再確認できました。より充実した時間をこのエッセイコンテストをきっかけに過ごせると感じております。



## 医学部1回生吉田さんが甲子園始球式に参加

医学部1回生吉田裕翔さんが8月10日(火)に兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われた第103回全国高校野球選手権大会の始球式に参加しました。吉田さんは、球場がある西宮市の甲陽学院高等学校出身で昨年大会が中止となった際、高校3年の野球部員であったこと、また医療関係者への感謝の意を表したいとの主催者の意図もあり、始球式の投手を務めることになりました。

### ○吉田さんコメント

自分が昨年高校球児で医療従事者を志していることから始球式を担当させていただくことになったので、昨年コロナウイルスの影響で甲子園大会に出場することができなかった高校球児の思いと最前線でコロナウイルスに対して命を削って働いている医療従事者の方々に対して、少しでも自分にできるエールを送らせてもらおうと思って始球式に臨みました。実際に始球式で投げさせてもらった感想としては、緊張でうまくボールが投げられなかったけれども、とても素晴らしい経験をさせてもらって、感謝するばかりです。



## 研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

### インストラクショナルデザインを用いた IBD 外来看護専門家育成プログラムの開発

看護学部・看護学研究科 慢性疾患看護学領域  
瀬戸 奈津子 教授

#### —先生の研究について教えてください。

いくつか慢性疾患看護の研究に取り組んできましたが、現在はファイザー医学教育プロジェクト助成 (Independent Medical Education Grants) (2019年9月～2023年9月)「炎症性腸疾患患者に対する適切な医療の提供に向けた教育プログラム」を受け、炎症性腸疾患(以下、IBD:inflammatory bowel disease)患者さんの外来看護に特化し、看護師の「疾患活動性<sup>\*1</sup>評価」能力と患者さんのセルフケア能力の評価に着目したIBD外来看護専門家育成プログラム(以下教育プログラム)の開発に取り組んでいます。

プロジェクトメンバーには、本領域の藤本悠助教、水野光君(博士後期課程)、片島麻佑さん(研究員)、学外の布谷麻耶教授(武庫川女子大学看護学部)、山本孝治講師(日本赤十字九州国際大学看護学部)、阪上佳誉子看護課長(インフュージョンクリニック)、アドバイザーとして伊藤裕章院長(インフュージョンクリニック)に入ってもらっています。

IBD患者さんの治療方法の選択において、看護師が患者さんの意思決定支援を行うことは重要ですが、現状の外来看護ではIBD看護専門家が少なく十分な支援ができていません。そして慢性疾患看護では、看護師のケア能力に加え、特に患者さん自身のケア能力が極めて重要です。そこでこの研究では、看護の視点で捉えるIBD疾患活動性評価ツール開発と、IBD患者セルフケア能力測定ツール開発、それらと並行して教育プログラム開発の3つに取り組んでいます。



#### —開発中のツールについて教えてください。

水野光君が主に取り組んでいるIBD疾患活動性評価ツールは、IBD看護専門家の看護能力を客観的に評価するもの。IBDに特化した看護師の疾患活動性評価ツールはこれまで存在せず、世界初の取り組みとなりました。

ツールの開発に先立ち、まずは先行研究から疾患活動性にかかわる内容を抽出し、IBD看護専門家に半構造化面接によるインタビ



ュー調査を行い、内容的妥当性(論理的妥当性・表面的妥当性)の検討により、看護師の視点で捉える疾患活動性評価項目を明確化しました。

明確化された評価項目に対し、海外におけるIBD看護のケアガイドラインであるSecond N-ECCO (Nurses European Crohn's and Colitis Organization) Consensus Statements on the European Nursing Roles in Caring for Patients with Crohn's Disease or Ulcerative Colitis (2018)の分類、Fundamental IBD nursingとAdvanced IBD nursingに準じ、「基礎」と「応用」に水準を分類する方向で調査の準備を進めており、結果は教育プログラムの内容にも反映する予定です。

また、IBD患者さんの治療には、患者さんのセルフケア能力も重要です。IBDは10～20代の成人初期に発症することが多く、再燃と寛解を繰り返しながら慢性に持続します。行動や活動などが長期間制限され、就学や就労などの社会的な生活にも影響が大きく、精神的負担も大きいものになります。これらへの対応のため、患者さん自身の症状への対応能力を向上させること、つまりセルフケア能力の向上が大切です。

セルフケアに関する看護研究が進んでいる糖尿病の分野で開発が進む、セルフケア能力を包括して捉える測定ツールIDSCA (Instrument of Diabetes Self-Care Agency:糖尿病患者セルフケア能力測定ツール)を応用し、片島麻佑さんがIBDに特化したものに改変しました。現在、患者会の協力を得て、インタビューにより患者の視点から内容的妥当性の検証を経た後に、全国規模で信頼性・妥当性を検証する準備を進めており、IBD患者のセルフケア能力測定ツールを開発する予定です。

#### —教育プログラムについて教えてください。

教育プログラムの開発には「インストラクショナルデザイン(以下、ID:Instructional Design)」の手法を応用しました。IDは問題解決志向型の学習を支援するための方法論で、これを活用することで、IBD患者さんへの看護で到達したい目標と現状とのギャップを埋めることができます。

山本孝治講師と藤本悠助教が主に担当し、メイガ-の3つの質問<sup>\*2</sup>に沿った研修設計を行い、ARCSモデルA:注意(Attention)、R:関連性(Relevance)、C:自信(Confidence)、S:満足感(Satisfaction)に基づき、研修計画を立案しています。単に教育者と被教育者に分かれて知識伝授するのではなく、自発的な参加を促進することで、研修の効果が高まります。研修は基礎コースと応用コースに分け、IBD患者さんが多く来院する医療施設

の外来に勤務する看護師が幅広く研修に参加できるよう設計しています。IBDの特性を踏まえた疾患活動性評価の視点が説明できること、検査データ並びにMayo Score（潰瘍性大腸炎活動性指標）やCDAI（Crohn's Disease Activity Index：クローン病活動性指標）等スコアからIBD患者さんの生活を想像し、適切な看護につなげられる実践能力を身につける、IBDの特性を踏まえたセルフケア能力アセスメントの視点が説明できる、セルフケア能力測定ツールのスコアから、個々の患者さんに応じたセルフケア支援が提供できる実践能力を身につける、の4項目を研修の学習目標として設定しま

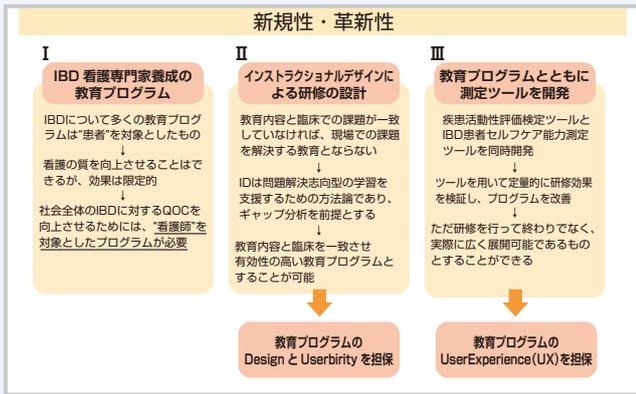
した。このような研修設計によるIBD看護専門家の育成を目指すプロジェクトも、世界初の取り組みといえます。

今後は、開発したツールを用いて、教育プログラム受講前後の看護師の疾患活動性評価能力を測定し、また教育プログラムを受講した看護師、受講していない看護師からそれぞれ看護を受けたIBD患者さんのセルフケア能力を測定し、各ツール、および教育プログラムの有効性を検証する予定です。

### —後輩へのメッセージを

臨床での疑問や気づきは、研究課題につながるものです。この課題の解決に取り組むことで、現場の看護の向上にもつながるといふ好循環が生まれます。疑問や課題に気付いたときに先行研究の文献などを調べてみて該当するものがあれば看護の向上につながりますし、先行研究がなければ、それはあらたな研究、発見の糸口になります。現状に甘んじることなく、「クリティーク」の精神を忘れずにいてほしいと思います。

- ※1 疾患活動性（操作的定義）…IBDの主観的・客観的データに基づき、看護の視点を含む疾患の活動性の程度
- ※2 メイガーの3つの質問…「どこへ行くのか」「たどり着いたかをどうやって知るのか」「どうやってそこに行くのか」、つまり目標の設定、達成評価、そのための研修や指導の設計を指す。



### ■ 主な競争的研究費採択歴

- ・平成20～22年度科学研究費助成事業基盤研究(C)  
糖尿病看護における実践能力育成プログラムの開発
- ・平成23～27年度科学研究費助成事業基盤研究(B)  
糖尿病看護における実践能力育成プログラムの普及と効果の検証
- ・平成25～27年度科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)  
慢性心不全患者の症状や徴候のパターンを見つけるための外来看護支援ツールの開発
- ・平成28～30年度科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)  
インシデント発生に関連する看護師のコンディション・アセスメントツールの開発
- ・令和2～6年度科学研究費助成事業基盤研究(C)  
高齢慢性疾患患者を対象とした外来看護包括的アセスメントツールの開発

### ■ 略 歴

- 平成 2年3月 金沢大学医療技術短期大学部看護学科卒業
- 平成 2年4月 金沢大学医学部附属病院看護師
- 平成 9年3月 埼玉大学教養学部教養学科卒業
- 平成11年4月 医療法人社団誠馨会加曽利病院(現・千葉中央メディカルセンター)看護師長
- 平成13年4月 社団法人日本看護協会看護研修学校 糖尿病看護学科専任教員／政策企画部政策企画係
- 平成18年3月 千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了・学位取得
- 平成20年4月 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻准教授
- 平成28年4月 関西医科大学看護学部設置準備室教授
- 平成30年4月 関西医科大学看護学部・看護学研究科教授

### ■ 所属学会・研究会(役職・資格等)

- 平成 7年 6月～現在 千葉看護学会
- 平成 9年 7月～現在 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会(平成20年9月～平成28年9月 理事・令和2年9月～副理事長)
- 平成11年 4月～現在 公益社団法人日本看護科学学会(令和1年7月～代議員・令和1年7月～令和3年6月 看護学学術用語検討委員会委員・令和3年7月～和文誌編集委員会委員)
- 平成11年 4月～現在 一般社団法人日本糖尿病学会
- 平成18年12月～現在 日本慢性看護学会 評議員(平成30年6月～令和2年6月 理事)
- 平成20年 4月～現在 一般社団法人日本看護学教育学会
- 平成20年 7月～現在 一般社団法人日本看護管理学会
- 平成24年 9月～現在 一般社団法人日本循環器看護学会(平成28年10月～令和1年10月 理事・令和2年10月～監事)
- 令和 1年 9月～現在 一般社団法人日本フットケア・足病医学会 理事・社会保険委員会副委員長・ガイドライン委員会委員
- 令和 3年 4月～現在 一般社団法人日本難病看護学会

## 【附属病院】オンライン・セカンドオピニオン外来設置

8月16日(月)から附属病院に「オンライン・セカンドオピニオン外来」を設置し、附属病院の全診療科においてサービスの提供をスタートし既に複数人が受診しています。これにより全国どこからでも本学附属病院の各領域専門医に、異なる角度から医学的な相談をすることが可能となりました。

セカンドオピニオンとは、すでに診療を受けている医師(主治医)、以外の医師に求める第2の意見です。また、同じ病気でも医師によって治療方針が異なる場合もあり、自分が受ける治療に自らの意思を反映させたいという患者さんのニーズは、これからも高まっていくと予想されます。そうした状況を受けて本学は、従来からある対面型のセカンドオピニオン外来を拡充させ、地域に縛られない「オンライン・セカンドオピニオン外来」を設置しました。これは、関西地方において2番目となる導入例です。

なお本サービスは、厚生労働省・経済産業省・総務省が策定した医療情報を電子的に扱う際の安全管理指針“3省2ガイドライン”に準拠した形で実施いたします。

### ■ 関西医科大学附属病院「オンライン・セカンドオピニオン外来」概要

#### 【対象者】

- 治療方針で迷っている方
- 他に治療方法があるかどうかを確認したい方
- 自分の症状が本当に適正に診断されているのか、確かめたい方

【相談時間】 60分まで 【相談料金】 44,000円(税込み)

【問合せ先】 地域医療連携部 地域医療連携課 オンライン・セカンドオピニオン担当 【電話】 072-804-2742

## 【総合医療センター】地下水膜ろ過システム完成式典

9月29日(水) 10時から総合医療センターホスピタルガーデン内において地下水膜ろ過システムの完成式典が執り行われ、杉浦哲朗病院長、中森靖副病院長、谷田由紀子看護部長らが出席しました。このシステムは災害拠点病院の指定要件の1つである『災害時に少なくとも3日分の容量の受水槽を保有しておくこと又は停電時でも使用可能な地下水利用のための設備を整備しておくこと』を補完するもので、井戸によって地下150メートルから毎分434リットルの地下水を汲み上げ、不純物を取り除くなどの処理を行うことで飲料可能な水を生成します。式典をもって稼働したシステムにより総合医療センターの3つの受水槽には生成された水が送られ、院内で使用されるとともに、耐震構造を備え、災害にも強いシステムは非常事態時における水の安定供給といった役割

が期待されます。式典では杉浦病院長によるシステム稼働のほか、生成された水の試飲も行われ、口にした参加者は『まろやかで美味しい』と評していました。



地下水膜ろ過システムで生成された水で乾杯する参加者

## 【総合医療センター】地域連携Webセミナー開催

7月8日(木) 18時30分から、総合医療センター地域連携Webセミナーが開催されました。Webセミナーは、他府県を含む全国から、医師、看護師、医療技術職を含む287人が受講。地域医療連携部徳原克治部長の司会の下に会が進行し、杉浦哲朗病院長による開会挨拶、守口市医師会博多尚文会長による挨拶が述べられました。

その後は關壽人副病院長を座長とし、内視鏡センター島谷昌明センター長による「胆膵内視鏡の最前線」、そして同部徳原部長を座長とし、乳腺外科岸本昌浩診療教授による「Luminal type切除不能・転移・再発乳癌の根治を目指した治療～真のevidence based medicine (EBM)の実践とは～」の2つの講演が行われました。

最後に關副病院長による閉会挨拶が行われ、盛会裏に幕を閉じました。



挨拶する杉浦病院長



# 令和4年度研修医、研修歯科医採用試験／専攻医研修説明会

## ◆令和4年度研修医採用試験／研修歯科医採用試験

8月6日(金)及び8月13日(金)「令和4年度研修医採用試験」を実施しました。昨年はコロナ禍を考慮して面接試験を中止し、小論文試験を実施しましたが、今年は感染対策を徹底した上で、面接試験を実施しました。

来年度は附属病院プログラムと総合医療センタープログラムの定員がそれぞれ1名増となり附属病院プログラム42名、小児科重点プログラム2名、産婦人科重点プログラム2名、総合医療センタープログラム8名、計54名の募集に対し、本学卒業見込み者78名、その他64名の計142名から応募がありました。

また令和4年度採用を目指し、厚生労働省に附属病院

歯科口腔外科歯科医師臨床研修プログラムとして定員2名で申請中の、研修歯科医の採用試験を初めて実施しました。試験日は8月6日(金)で、筆記試験と面接試験を実施し、応募者は3名でした。



採用試験の様子

## ◆令和4年度採用専門研修プログラム説明会

8月21日(土)15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、令和4年度採用専門研修プログラム説明会が開催されました。昨年に続きコロナ禍での開催となったため、説明側も各ブースに1名、会場もソーシャルディスタンスが保てるようなブース配置としました。会は、友田幸一学長、卒後臨床研修センター金子一成センター長(小児科)からの挨拶のあと、10月に香里病院総合診療医学講座(地域医療学)に着任した石丸理事長特命教授が、「なぜ今総合診療なのか?」をテーマに講演しました。その後17プログラムのブースに分かれて、

各プログラムを説明しました。当日は学内の研修医15名、他病院の研修医5名の計20名が参加しました。



説明会の様子

関西医科大学附属病院、総合医療センターは基幹型臨床研修病院として、それぞれの病院の理念と基本方針に沿った臨床研修理念と基本方針を策定しております。

### 臨床研修病院としての理念・基本方針

#### ● 附属病院

##### 研修理念

慈仁(めぐみ)を心の鏡とした「安全で安心の医療」を基本姿勢とし、医師としての人間性を涵養し、幅広く必要な診療能力を身につけた誠実であたたかい医療を提供できる医師を育成します。

##### 研修基本方針

1. (人間性の涵養)
  - 豊かな人間性と高い倫理観をもち、科学的思考に基づいて行動できる医師を育成します。
2. (基本的診療能力の習得)
  - 患者を全人的に診ることができ基本的な診療能力を有した医師を養成します。
3. (チーム医療)
  - チーム医療の目的や役割を理解し、かつ地域医療に貢献できる医師を養成します。
4. (安全・質の高い医療)
  - 最新の医学、幅広い知識と技能を有し、安全で良質な医療を実践できる医師を養成します。

#### ● 総合医療センター

##### 研修理念

患者さん本位の医療を基本姿勢とし、医師としての人間性を涵養し、プライマリ・ケアを中心に幅広く必要な診療能力を身につけた全人的であたたかい医療を提供できる医師を育成します。

##### 研修基本方針

1. (人間性の涵養、倫理)
  - 患者や家族と良好な関係を築き、豊かな人間性と高い倫理観をもった医師を育成します。
2. (基本的診療能力の習得)
  - 医療全般にわたる幅広い視野と高い見識をもって基本的診療能力(知識、技能、態度、総合判断力)を身につけられるよう養成します。
3. (チーム医療)
  - リエゾン精神医療、チーム医療における連携と医師としての役割を自覚し、全人的なチーム医療を実践できる医師を養成します。
4. (地域連携)
  - 地域医療支援病院としての役割を理解し、地域医療に貢献できる医師を養成します。
5. (質の向上、生涯学習)
  - 屋根瓦方式で後輩や医学生の教育にも携わり、安全かつ根拠に基づいた質の高い医療が提供できるよう、自ら研鑽できる医師を育成します。

## 学会主催報告

令和3年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### 第117回日本精神神経学会学術総会

■会期 令和3年9月19～21日 ■場所 国立京都国際会館

テーマ：「革新と伝統が紡ぐ質の高い精神医学」

第117回日本精神神経学会学術総会を令和3年9月19日～21日の3日間にわたり、京都市の国立京都国際会館で開催いたしました。「革新と伝統が紡ぐ質の高い精神医学—Precious psychiatry bridging between tradition and innovation—」を大会テーマに開催させていただきました。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大による未曾有の事態の只中にありますが、多くの皆様にご参加いただきました。

【総会長：精神神経科学講座 木下 利彦 教授】



### 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会

■会期 令和3年7月2～4日 ■場所 大阪国際交流センター

テーマ：「小児泌尿器におけるオーダーメイド医療」

本学会は、泌尿器科医、小児外科医、小児科医、看護師など多職種の医療従事者で構成されていますが、30回を数える本学会学術集会を小児科医が主催したのは過去3回しかありません。そこで小児科医らしく「小児泌尿器におけるオーダーメイド医療」をテーマとしました。「スペシャリストである前に、わが国の子どもを取り巻く環境を知り、個別のニーズに合わせた治療を提供したい」という思いを込めたテーマです。コロナ禍で、ハイブリッド形式に変更しての開催でしたが、参加登録者数は例年を上回り評判も上々でした。

【総会長：小児科学講座 金子 一成 教授】



### 第28回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

■会期 令和3年9月3～4日 ■場所 京都国際会館

テーマ：「整形外科と脳外科の未来への融合」(Fusion for Future)

本学会は脊椎・脊髄の手術手技や手術支援技術に特化した学会です。特に脊椎手術を担当する医師がその科を問わず集合する学会であることが特徴として挙げられます。整形外科、脳外科に関わらず、脊椎疾患患者を治療する日本全国全ての脊椎外科医が集まり、その技術や診断、術後の後療法などを議論する場を提供する、我が国でも稀な学会として広く認識されております。最近のトピックであります成人脊柱変形や人工椎間板、側方侵入椎体間固定などをはじめとする新技術や、従来から広く用いられている手術手技に関する新たなアイデアや工夫なども議論されています。今回、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現地開催とライブ配信を併用するハイブリッド開催となりましたが、参加者は合計460名を越え、コロナ禍での開催となりましたが予想を上回る大会となりました。

【総会長：整形外科科学講座 齋藤 貴徳 教授】



### 第50回日本IVR学会総会

■会期 令和3年5月20～22日 ※オンデマンド配信は6月7日～7月5日

■場所 ホテルニューオータニ大阪を基地局とするWEB開催

テーマ：「輝き続けるIVR – The 50th Meeting of JSIR –」

LIVE配信は5月20日(木)から5月22日(土)まで、オンデマンド配信は6月7日(月)から7月5日(月)まで開催されました。

本学会は第50回の記念大会でしたがコロナ禍による緊急事態宣言下での開催となり、急遽完全WEB形式に変更されました。それに関わらず、過去最大の2,030名の方が参加されました。特別企画、特別講演、シンポジウム、技術教育セミナー、一般演題等に加え、アジアの若手医師の参加するSIRAP-Webセミナーなど盛りだくさんの内容で、ご参加いただいた先生方には大変好評でした。ご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。

【総会長：放射線科学講座 谷川 昇 教授】





## 学会賞等受賞情報

令和3年7月～9月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

### 日本小児泌尿器科学会 2021年優秀論文賞 [臨床研究部門]

小児科学講座 赤川 翔平 講師

■テ ー マ Desmopressin response in nocturnal enuresis showing concentrated urine (Pediatrics International, 2020年1月)

■授与学会 日本小児泌尿器科学会総会



### 第11回日本泌尿器内視鏡学会 阿曾賞

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テ ー マ 上部尿路腫瘍に対する新たな尿路内視鏡治療

■授与学会 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会



### 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞 [基礎研究部門]

小児科学講座 赤川 翔平 講師

■テ ー マ 小児における尿中細菌叢：その存在と病的意義の検討

■授与学会 第30回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会

### 日本脊椎・脊髄手術手技学会 優秀論文賞

整形外科科学講座 石原 昌幸 助教

■テ ー マ AI遺残型脊柱変形に対する circumferential MISの短期成績と手術手技のコツ

■授与学会 第28回日本脊椎・脊髄手術手技学会



### 第56回日本小児腎臓病学会学術集会 優秀演題賞

小児科学講座 山内 壮作 講師

■テ ー マ アバタセプトが寛解維持に有効であった微小変化型ネフローゼ症候群の1例

■授与学会 第56回日本小児腎臓病学会学術集会



### 第28回日本脊椎・脊髄手術手技学会 ベストプレゼンテーション賞

整形外科科学講座 谷 陽一 助教

■テ ー マ 成人脊柱変形に対する ACR 併用 XLIF による short fusionでの脊柱矢状面バランス矯正効果

■授与学会 第28回日本脊椎・脊髄手術手技学会



### Young Endoscopist Award

内科学第三講座 佐々木 浩太郎 助教

■テ ー マ 胆管空腸吻合部完全閉塞症例に対して極細径内視鏡を併用した Combination 法が有用であった一例

■授与学会 第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会



### 日本糖尿病教育・看護学会 奨励賞

看護学部・看護学研究科 治療看護分野

慢性疾患看護学領域 村内 千代 助教

■テ ー マ 本学会評議員や研修推進委員会での糖尿病重症化予防(フットケア)研修ファシリテーターをはじめとした数多くの活動実績。糖尿病看護認定看護師として本学会学術集会での多数の演題発表ならびに大阪府内糖尿病看護研修や小児1型糖尿病患者会支援などの活動実績。

■授与学会 第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会



### 日本小児泌尿器科学会 2021年優秀論文賞 [基礎研究部門]

小児科学講座 赤川 友布子 助教

■テ ー マ Impact of long-term low dose antibiotic prophylaxis on gut microbiota in children (The Journal of Urology, 2020年12月)

■授与学会 日本小児泌尿器科学会



### 日本地域看護学会第24回学術集会最優秀演題賞

看護学部・看護学研究科 広域看護分野 地域看護学領域

大川 聡子 准教授

■テ ー マ 未就学児を育てる母親の逆境の小児期体験(ACE)の実態と第1子出産年齢による比較

■授与学会 日本地域看護学会第24回学術集会



## 卒業生教授 就任のご紹介

### 東海大学医学部総合診療学系小児科学 教授 山田 佳之氏



令和3年4月に東海大学医学部総合診療学系小児科学の教授を拝命致しました。関西医大で小林陽之助先生のもと小児科医としての第一歩を踏み出し、その後、秋田大学に国内留学して以来、一貫して好酸球関連の基礎・臨床研究を続けてきました。消化管アレルギーの臨床的な仕事が増え、小児科医として思いを共有できる若手の育成を目指して現職に就きました。遠く離れた母校からもみえるような仕事ができるように精進して参ります。

#### 略 歴

平成 7年 関西医科大学卒業  
 平成 7年 関西医科大学附属病院 小児科研修医  
 平成10年 関西医科大学 小児科 助手(秋田大学出向)  
 平成10年 秋田大学医学部附属病院 中央検査部医員  
 平成15年 秋田大学大学院医学研究科修了  
 平成15年 米国シンシナティ小児病院医療センター 博士研究員  
 平成19年 群馬県立小児医療センター アレルギー・感染免疫・呼吸器科医長  
 平成20年 同・部長  
 平成27年 同センター 外来診療部長・地域医療連携室長(兼務)  
 平成30年 同センター 感染対策室長および医局長(兼務)  
 令和 3年 東海大学医学部 総合診療学系小児科学 教授



# 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。  
(主に令和3年7月1日～9月30日 ※判明のみ)

関西医科大学 附属免疫医学研究所	時事ドットコムニュース (時事通信) (7月2日更新)	令和4年4月に設置予定の「関西医科大学附属免疫医学研究所」に関して、所長予定者の小林久隆医師が取材を受け、免疫療法の特徴、今後の見通しや研究所の将来構想などが掲載されました。
看護学部母性看護学領域 岩國 亜紀子 講師	たまひよONLINE (7月5日更新)	岩國講師が、つわりの軽減を目的とした自身の研究をもとに、辛い時に少しでも食べるためのコツやおすすめの食材・料理、吐くときに楽になるコツなどを解説した内容が掲載されました。
総合医療センター	日本経済新聞 朝刊他 (7月15日)	総合医療センターが、新たに新型コロナウイルス感染症重症者専用の臨時施設「大阪コロナ重症センター」(14床)を整備することについて報道されました。
関西医科大学 附属免疫医学研究所	週刊新潮 (7月15日)	附属免疫医学研究所や小林久隆氏の所長着任予定が免疫療法の特集記事で取り上げられ、同療法が附属病院免疫療法センターでも実施予定であることと合わせて紹介されました。
医学部 神経内科学講座 薬師寺 祐介 教授	ヨミドクター (読売新聞オンライン) (7月17日更新)	薬師寺教授が「緊張性頭痛」を取り上げた特集の中で「薬物乱用頭痛」を解説し、かかりつけ医受診を促すコメントが掲載されました。
附属病院 血管造影IVR科	読売新聞 朝刊 (7月30日)	附属病院血管造影IVR科が、連載企画「医の現場」において子宮動脈塞栓術を実施する国内有数の拠点として紹介され、谷川昇副院長のコメントが掲載されました。
医学部 小児科学講座 石崎 優子 准教授	NHK総合テレビ「関西のニュース」 (8月7日)	石崎准教授らが、「起立性調節障害」を患った子どもたちに対し、寝たままでも効果的な治療を行える運動器具開発のためにクラウドファンディングを行うこと、その記者会見の様子が放送されました。
医学部 医化学講座 清水(小林) 拓也教授・寿野 良二 講師	マイナビニュース (8月6日更新)	清水(小林)拓也教授・寿野講師らが、東京大学他の研究者と共同で睡眠に関わるメラトニン受容体のシグナル伝達複合体の立体構造を解明したことや研究の概要、今後の治療薬開発への期待が紹介されました。
医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 高田 洋平 講師	毎日新聞 朝刊 (8月7日)	高田講師が、大阪府耳鼻咽喉科医会などが紙上開催した「第11回鼻の日セミナー 健やかな日々のヒント」において、慢性副鼻腔炎の特徴と診断、治療について解説した他、内視鏡の進歩で手術の負担が減っていることなどを紹介しました。
医学部 外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	日刊工業新聞 (8月13日)	海堀診療教授らの研究グループが、これまで手術前検査で発見できなかった微小な肝細胞がんを、手術中に観察できる新しい蛍光イメージング手法を開発したこと、同手法が肝・胆道がんの治療に応用できることが紹介されました。
医学部 精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	毎日放送「医のココロ」 (8月14日)	加藤准教授が「夏バテ」シリーズ企画の中で「夏うつ」をテーマとした放送回に出演し、夏に起こるうつの特徴や症状、夏バテとの見分け方、予防法などを解説しました。
医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 藤澤 琢郎 講師	読売新聞 夕刊 (8月17日)	藤澤講師が連載企画「医ナビ」の取材を受け、附属病院免疫療法センターにおける第1例症例が一定の治療効果を上げたこと、同講師のコメントが掲載されました。
医学部 医化学講座 清水(小林) 拓也 教授・ 寿野 良二 講師	医療NEWS QLifePro (8月17日更新)	清水(小林)拓也教授・寿野講師らが、東京大学他の研究者と共同で睡眠に関わるメラトニン受容体のシグナル伝達複合体の立体構造を解明したこと、「不眠症や時差ボケなど概日リズムの乱れによる体調不良に対する治療薬の開発へとつながることが期待される」としたコメントが掲載されました。
医学部 法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	産経新聞 東京本社版朝刊 (8月18日)	橋谷田准教授が、米国でDNAを用いた家系図「遺伝子系図」が難事件を解決に導いていることを踏まえ、同様の手法が日本に導入できるかについてコメントしました。
附属生命医学研究所免疫反応制御部門 廣田 喜一 学長特命教授、 松尾 慎之 講師	マイナビニュースTECH+ (8月18日更新)	廣田学長特命教授、松尾講師らと広島大学との研究グループが、新型コロナウイルスがヒトに感染する際に利用する受容体の構成タンパク質の1つである「ACE2」の発現がタバコの煙成分によって低下することや、それが芳香族炭化水素を介して低下すること、およびその機構と関与する化合物を明らかにしたことが掲載されました。
医学部 小児科学講座 石崎 優子 准教授	NHK 「おはよう日本」 (8月23日)	石崎准教授らのグループが、厚生労働省の事業として小児病床を持つ全国943医療機関を対象に調査した、虐待などで入院・治療後に受け皿がなく退院できずにいる子どもが2019年に全国で327人いた結果が、本人のコメントとあわせて放送されました。
附属生命医学研究所免疫反応制御部門 廣田 喜一 学長特命教授、 松尾 慎之 講師	財経新聞 (8月23日更新)	廣田学長特命教授、松尾講師らと広島大学との研究グループが、タバコの煙の成分や、アミノ酸の一種であり食物にも含まれているトリプトファン代謝物と、胃潰瘍治療薬の1つであるオメプラゾールなどに 新型コロナウイルス感染を抑えるものがあったことを示す研究結果が掲載されました。
附属病院乳癌外科 杉江 知治 診療教授	日経メディカルONCOLOGY (8月24日更新)	杉江診療教授がホルモン受容体(HR)陽性HER2陰性進行乳癌の一次治療および二次治療での投与について、日常臨床におけるCDK4/6阻害薬の位置づけと、CDK4/6阻害薬2剤の使い分け、HR陽性乳癌治療の今後の展開について解説しました。
リハビリテーション学部作業療法学科 三木 忠美 准教授	作業療法ジャーナル55巻10号 (9月) (8月28日発売)	連載記事「あなたにとって作業療法とは何ですか」に三木准教授が登場し、作業療法では結びつきやかかわりのようなつながりを表す言葉がよく使われることに触れ、本人のコメントとあわせて掲載されました。
医学部 腎泌尿器外科学講座 木下 秀文 教授	朝日中高生新聞 (9月5日)	木下教授が、手術支援ロボットのメリットとデメリットなどについて大阪教育大学附属池田中学校生徒のオンラインインタビューに答えている様子が掲載されました。
関医訪問看護ステーション・香里 藤川 由美子 看護師	大阪日日新聞 (9月8日)	藤川看護師が、自身が受講した医療や介護現場への復帰に必要な知識や技術を学び直せる「関医・看護師リカレントスクール」での学びについて振り返ったインタビューが掲載されました。
医学部 眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHKテキスト「きょうの健康」2021年10月号 (9月21日)	高橋教授が、特集「なんでも健康相談コーナー」において、網脈絡膜萎縮の症状や原因を解説し、詳しい検査の受検を薦める回答が掲載されました。
医学部 小児科学講座 赤川 翔平 講師	日経バイオテック (9月22日更新)	赤川講師らの研究チームが、通常の大麦と比較して2倍の食物繊維と4倍のレジスタントスターチを含む非遺伝子組み換え大麦を継続的に摂取した場合、腸内細菌叢における酪酸産生菌の割合が増加することを発見したことが紹介されました。
医学部 内科学第一講座 尾崎 吉郎 准教授、 皮膚科学講座 山崎 文和 准教授、 内科学第二講座 竹花 一哉 准教授	リビング大阪 (9月24日)	尾崎准教授、山崎准教授、竹花准教授が「乾癬」を取り上げた記事において、症状や発症要因、治療法、生活習慣病や心臓の病気との関連について解説しました。

## 《新型コロナウイルス感染症関連》

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (7月9日・13日・15日・27日・30日、8月4日・5日、9月3日・9日)	総合医療センター	NHK「ニュースウォッチ9」 (8月2日、9月7日)
総合医療センター	テレビ大阪「やさしいニュース」 (7月14日)	医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	産経新聞 朝刊 (8月6日)
救急医学講座 中森 靖 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (7月15日・16日)	衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (8月19日・24日、9月13日)
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (7月19日、8月3日・12日・17日、9月1日・14日・20日)	附属病院 高度救命救急センター	ABC「キャスト」 (9月2日)
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	日本経済新聞 朝刊 (7月21日)	総合医療センター	NHK「おはよう日本」 (9月8日)
総合医療センター	NHK「ニュースほっと関西」 (8月2日、9月6日・9日)	総合医療センター	NHK「かんさい熱視線」 (9月10日)

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

木の葉が色づき朝晩の冷え込みが厳しい季節となりました。校  
方学舎の横では関医タワーがすっかりその姿を現し、あとは竣工  
を待つのみとなりました。季節と景色の変遷の速さに時の流れを  
感じますが、タワー棟のように背筋を伸ばして残りの令和3年を  
過ごしたいと思います。(も)

## 関西医科大学広報 Vol.55

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 広報戦略室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

http://www.kmu.ac.jp/  
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和3年11月19日(金)発行